

# 市政報告

2019年  
夏号

仙台市議会議員  
柳橋くにひこ

この街の百年を見据えて、次代のビジョンを創造し、実現する!

〒980-8671 青葉区国分町3丁目7-1(議会会派) TEL 022-375-2211 FAX 022-236-9870

## 市長への質問 六月議会

一人と人の関わりの中で、  
多様な能力が花開く市政を

私たちがともに歩んだ平成の道は、厳しく波乱に満ちた道でありました。今、令和の時を迎えて、仙台と仙台にある市井の人々は何を感じているのでしょうか。

日々現出する悲惨きわまる虐待、家族間の殺人事件やいじめ、毎日報道をにぎわす高齢者たちや未熟なドライバーによる暴走と人身事故事犯。そして、インターネットの行き過ぎた安易な開放とあげくの炎上。さらに、不登校やひきこもり等。

こうしたさまざまな社会の劣化現象と複雑化する日常の中にあっても、市民はこのたびの御世がわりには、晴れ晴れしく明るい光を認め、継続していくことへの信頼と安堵の思いを一体して感じたのではないのでしょうか。

希望と不安と、この並行し対立する様相のうちにおいて、人々は息づいているわけです。

正と誤、善と悪、それらの狭間に惑う市民。一方で懸命にこの社会を支えていこうとする市民。こうした人々に正対し、市長はその役割に立って、果たしてどのように令和の道の行方を指し示しているのか。すなわち市長の指導力、統率者としての任務を、ど



6月9日 柳橋議員、市長に質す

のように展開し発揮されようとしているのか。その点をまずお示しただけなにかと存じます。

今、さまざまな局面で重要な要素と考えられている「多様性」が、どこか狭い空間に閉じ込められようとしていて、本来は開放されるべき意見や仕組みが、封印されそうになっている感があります。

さらに、これ以降、徐々にとは申せ、人口の減少は必然です。したがって、1Tや10TやA1等の進化を私は否定するわけではありませんが、今度一番町にできると言われる「変なホテル」のように、ここもかしこも人を必要としないおそれが生じ、定型処理や年功序列でのやり方に従っていけば、やがてこの市役所といえど、人は半分でも済むようになるかもわかりません。

だからこそ、私は顔と顔、人と人とのつながり、人間関係というものが、一層重要度を増すことになることを確信しております。

人口数の減量は、質的増量で賄わねばなりませんから、人の持つ開かれて自由で多様な能力を封じ込めずに開放し、これによってさらに多くの見識や生活と意見が寄せられてくるのではと存じます。このことにつき、市長の見解を伺いたいと存じます。

### 新しい発想とスピーディな 対応で中心市街地の活性化を

次に、先日、SMT、仙台メディアテークで開催されました定禅寺パブリックミーティングに参加した一人として、政策提言されている定禅寺活性化に関連して、中心市街地をテーマに、仙台のまちづくり私流百年の計について提案を申し上げます。

まず最初に、端的に申し上げますが、現在進行中の多機能型音楽ホールの仙台市単独建設に反対します。少し前なら二重行政と言われたはずで

す。せっかく県がチケットを売って収入を得るといって、二千席の興業型ホールをつくらせると明言したのですから、これに感謝するべきです。

さらに、定禅寺通の県民会館は空き地となることがわかったわけですから、一日も早く定期借地権など、民間のいわゆるリースをすればいい。どうですか。そして、そこに地下二階、地上七階ほどのモダンな建物をつくり、そこにはまず仙台美術館、そして仙台演舞場、伊達家ゆかりの仙台能楽堂、さらに仙台フィルハーモニーの根拠地たるクラシック専用ホール一千五百席。茶道や華道、芸術万般の修煉場と展示施設、ストリート広場も足して、仙台らしい芸術文化の一大拠点を創造するのです。

同時に、またその中に市役所の一部分、例えば文化観光局などを移し入れて、新本庁舎と定禅寺通の融合を図る。建物はいかようにもつくれます。荷運び用地以外は余計な場所を設置せず、全ての人々は徒歩による来場といたします。

それに、皆さんに想像していただきたいのですが、夜の花街国分町がほど近くですから、晩翠通から西公園寄りの箇所には、三十軒ほどの屋台村を路上に許可したらいいのです。黙っていても人は集まります。夕刻ともなれば、屋台の赤提灯を指して、本席お座りの方々が先頭に立つことになりそうです。断言します。間違いないです。もちろんこれは、地元の方々とも十分に御相談の上のことでしょうけれども、どうでしょうか。

さて、百年のまちづくりともなれば、大規模な区画整理も必要となります。勾当台通と定禅寺通、それと二日町、市役所前の表小路、この長方形の土地を整理させていただいて、そこに都市計画に基づき正しく必要な建物、例えば本庁舎の第二庁舎でもいいじゃないですか。また、散らばっている外郭団体をまとめる。もちろん、飲食を初め多様な施設も含め、改めて集合させたらどうですか。

そして、東一番町通には、定禅寺通から南町通まで、通しのペDESTリアンデッキをつくり

ます。ペデの両側には幾多幾種の店舗に出店してもらい、その上の階には中層階のマンションをしつらえれば、高齢の方々はぎっごまち住まいを始めることでしょうか。それは便利ですから。

それにつけても、東二番丁通と定禅寺通角の某宗教法人の所有する空き地が問題となりませんか。現在のところは、当局の訪問調査によれば、特段の意思は持っていないとのことですから、仙台市は直ちに借地するか所有するかの手を打つべきです。

本年二月一日の北國新聞の報ずるところによれば、金沢都ホテル跡地の広大な空地を所有する大阪の近鉄不動産本社に、金沢市長山野さんが直接訪ね、たとえ暫定使用であっても駐車場は絶対反対だと、申し入れを行った事実があります。

私は、郡市長にも相手方に対して、仙台のこれからまちづくりの配慮した開発計画を早期に示すよう求め、その動向について一層強く懸念を持つべきと愚料いたします。

ところで、仙台駅の東西に人が集まるのは、そこに行ってみたいものがあるからです。その人々を定禅寺通に無為無策のまままで回遊させようと図っても、どのみち内容に大差なしとすれば、人は振り返りもしません。人は自分の行きたいところに行くのです。何か物語があって、わくわくする日常があってほしい。欲を言えば、そこに自分が参加したい。自分の満足できる日々、それが欲しいわけなのです。

以上を申し上げてまいりましたが、中心市街地活性化と重ね合わせ、市長の見解について伺います。

### 「市民とスポーツ」を 地域づくりの柱にした市政を

仙台は今、杜の都、学びの学都、音楽の楽都、劇都、文化芸術、スポーツ都市、数々のイベントのあるまちです。それぞれその一つ一つが大きな切り口を持ち、数々の提案能力を所有していると思います。

特にスポーツシティ構想については、これからの重要課題として柱に据える必要があります。なぜなら市民のスポーツに対する幅広い関心は、市民の一人一人持つ健康志向がその下敷きになっているからです。スポーツは、個人、団体、アマ、プロ、屋内、屋

外、そして山や川や海と、その幅は広く多様です。このことは、自治体の運営にとってもいわば絶対的のチャンスであり、宝の山を持っていることとなります。

もう一度仙台を見てみましょう。仙台のスポーツ人口は、「する・みる・ささえる・ひろがる」このキャッチコピーのもとで、ほかと比較してすごい勢いが出てきました。

フィギュアスケート、荒川、羽生両選手によるオリンピック三つの金メダルを頂点として、ほかにもプロの楽天、ベガルタ、89ERSを先頭に、ゴルフ、パドミントン、卓球等々、市民に与えた影響ははかり知れません。この男女を問わないひたむきな選手たちの姿を自分に重ねながら、市民の多くが走るハーフマラソンの出場が大人気になるわけです。そして、第一、楽天やベガルタの勝敗の行方は、翌日の市民の気分にかかわります。

さらに、観客や参加者として来仙客も増加の一途、交流人口も大幅な増加と報告をされております。この状況をただ見ているだけではもったいない。

私どもの会派の壁には、「祈羽生記念アイスアリーナ建設」の張り紙があります。といって、直ちに仙台市に施設をつくれとは申しておりません。まず、スケートリンクにかかわる民間会社の方々とさまざま意見を交換して、できればスポンサーとして出資を願う、例えばサッカーのガンバ大阪の専用競技場をパナソニックがつくったようなことを、手本として考えてはいかがでしょうか。

このスポーツと市民というくりを、市政の柱にするべきと存じます。来年の東京オリンピック・パラリンピックは、あらゆる意味で大変なブームを呼ぶでしょうが、一過性に終わらせることなく、終了後も永続する仙台の地域づくりのために、スポーツ行政の重要度を強く認識されることを希望しますが、市長、いかがでしょうか。

つまり、明らかに仙台は、個々を総合させる鍵を握った。

### 令和の時代にダイナミズムに あふれた仙台を創造

私の学校時代の後輩に当たる作家と話をしたとき

に、仙台のまちを想像するに、彼はプロムナード、遊歩道の似合うところだと感ずる。杜の都であると同時に、花の都でもあってほしい。花の都といえばパリと伝わるが、今はどうだろう。フラワーロードの本来は、人の心にある花なのではないか。花咲くまちは心のまちだ。百花繚乱たる仙台を描こうと、互いの結論でありました。

そのとき私は、百花の花の字は、華やかな華でもよい。その華やかさを邪魔しないまちということではないかねと、言ったものです。

まさに人の手が創造する百年のまちづくりは、単に見、聞き、触れるというだけの表層的なものであってはならず、常にその本質は何かを互いに学び合うものでなくてはなりません。なぜなら、冒頭述べたごとく、今、幸福の度合いが下がってきているとき、表面に右往左往することなく、本物とは何か、本質とは何かをより深いところで感得することできれば、はるか百年を見通すことは難しいことです。

以上申し上げました私流百年構想は、誰しもが思いつくことだろうと思われまふ。しかし、さまざま法的制約もあるからそう簡単には無理だと、まずガードが先なのか、それとも誰かが、いやとにかく考えてみようから始めるのか。私は一人一人の知恵と力を結集すれば、決して絵空事ではない、ビジョンと懸命の努力があれば、実現も夢ではありません。

これまでのように、大きなものが小さなものを動かしていくのではない。小さなものが大きなものを動かす時代が来ています。個々の行動によって全体が変わっていくことで、さらにそこから新しい特性を生み出すという、創発の概念のもとで、活力、迫力、力強さといった、新しいダイナミズムにあふれた仙台を創造すべき令和の時代なのではないかと、私は考えます。

幅広く深い本質的多様性を所持しながら、このまちの百年をつくる、今その先頭に立っているのは、市長、あなたです。いかがでしょうか。

市長の心に感ずることをお述べへたくさい。

# 「市長答弁」

## 市民が活躍できるまち・仙台の実現をめざす。

ただいまの柳橋邦彦議員の御質問にお答え申し上げます。  
市長の統率者としての任務などに関するお尋ねでございます。

昨今、川崎市での殺傷事件や高齢ドライバーの暴走事故、またたび重なる児童虐待など、痛ましい事件が報じられているところであります。平成の時代には、社会の急速な高齢化に加えまして、インターネットが飛躍的に普及をいたしました。瞬時に多くの情報が行き交うという、こういう社会になった一方で、人々の孤立化を進める、そんな側面もあったという認識を、私は印象を持っているところであります。

令和という新たな時代の幕開けを祝意の中で迎えることができただけども、この時代を希望に満ちた確たるものにしていくためには、私たちが手を携えて困難な課題にも立ち向かおうとする気概と努力、これが不可欠であろうと、このように思っております。

もとより仙台市長は、百八万市民の皆様方の幸福を願い、その実現に向けて職務を全うすべく務めを負っております。

令和における仙台北政の方向性につきましては、次期総合計画の中で今後お示しをまいりますけれども、私の根底にある思いといたしましては、市民の皆様方が本来お持ちになっている多彩な能力が発揮されるようにこそ、都市の活力が生まれ、そしてその能力とは、多様な人々とのかわりの中にあって花開くものであると考えているところであります。

新しい時代におきまして、市民生活の安全・安心を守りながら、社会とのつながりの中、市民お一人お一人が活躍できるまち仙台の実現を目指して、市政運営に当たってまいります。

## 市民との連携を強めて、これからの都市市政を展開

それから、定禅寺通活性化に関する中心市街地のま

ちづくりに対してお尋ねがございました。

定禅寺通活性化事業の主な狙いというのは、仙台駅周辺に集中する人の流れを定禅寺通に呼び込んで、都心全体の回遊性向上と都市活力の創出、これを目指すこととあります。

昨年十月には、関係者による検討組織が設置をされました。より多くの人が集い、にぎわう、魅力的な定禅寺通の空間の創出に向けて、道路空間のさらなる利活用ですとか、周辺の不動産の活用、エリアマネジメント手法など幅広い検討が進められております。検討組織には、みずからの地域の課題を考えて行動しようとする方の参加がふえておりまして、屋台の例示もございましたけれども、活発な議論の中で、未来の定禅寺通の姿が描かれていくものと認識をいたしております。

定禅寺通にとどまらず、都心再構築の視点からも大きな影響を及ぼす音楽ホールのある方や、大規模用地の用途などにつきましては、各事業の進捗に合わせ、必要な検討を進めてまいります。美しいケヤキ並木に彩られました定禅寺通は、都を象徴する貴重な財産であると思っております。その特性や強みを生かしながら、地域や市民の皆様とともに取り組みを加速させてまいります。

それから、スポーツ行政の重要性についての御指摘、ございました。お答え申し上げます。

スポーツには、健康増進や生きがいづくりはもとより、地域コミュニティの形成など、さまざまな力があるわけがございます。あの東日本大震災の復興の過程では、楽天イーグルスやベガルタ仙台、そしてまた羽生結弦選手など、本市にゆかりの選手皆様方から、大きな勇気や希望をいただいております。多様化が進む現代社会にあっても、スポーツは市民が心を一つにできる大切な分野であると考えております。

本市といたしましては、スポーツ推進計画のもと、スポーツを契機としたまちづくりを重要な施策の一つと位置づけまして、市民のスポーツ環境の向上や、大規模スポーツ大会の誘致などによる地域経済の活性化に努めますほか、スポーツを軸とした体験プログラムの創出による地域の魅力発信や、誘客の促進にも着手をいたしております。

近年、民間企業では業種を超えてスポーツビジネス

スに参入する動きがございますし、また、健康経営に取り組み企業もふえるなど、スポーツを支える新たな担い手が注目されております。

私といたしましては、これまでの市民の皆様との取り組みをさらに深めながら、こうした新たな担い手とも連携を強めて、本市の財産であるさまざまなスポーツ資源を生かした、分野横断的な都市政策の展開に努めてまいります。

## ダイナミックで

## 都市個性のある街を次の時代に

未来に向けたまちづくりに関する私の考えについてのお尋ねでございます。

人口減少やテクノロジーの進歩など、社会が大きく変化する中であっても、未来に向けて仙台が輝き続けるためには、先達によって築き上げられてきたこのまちの歴史や文化、都市個性、これをしっかりと認識し、そこに立脚したまちづくりを進めることが肝要であると、このように認識をしております。

私は、仙台のまちにとって原点は、藩祖伊達政宗公に始まり、戦災からの復興や、急速な経済成長の中にあっても、たゆまぬ市民の皆様方の営みによって育まれてきた、美しい自然と都市機能が調和した品格のある都の都の理念にあるものと、このように考えます。

本市は今後、復興の次のステージに向けまして、未来を見据えた都心再構築などに着手してまいりますけれども、その中であってもまちづくりにかわる多くの市民の皆様方の知恵や持てる力を最大限に生かす、市民が主役のまちづくりこそが鍵になるものと存じます。

このまちの多様な価値や知恵、これを掛け合わせながらチャレンジを重ね、新しい息吹を吹き込むことを通じまして、本市の誇る都の都市個性を磨き上げて、ダイナミズムあふれる仙台を次の時代に引き継ぐべく、全力を尽くしてまいります。

以上でございます。

# 質問を終えて

今回は百年のまちづくり、分けても定禅寺通り活性化と中心市街地活性化に、音楽ホールをテーマとして照準をあてました。いずれも前市長からの引き継ぎ案件です。仙台市全体をどう言った「まち」にして行くのか。大枠の将来図とともに具体的な目前のまち並形成のことが重要となります。

中でも音楽ホールは二十の政令市中、仙台だけが所有していません。音楽は人に癒しを与え、時には勇気を与えます。大震災の時などは、どれほど市民に力を届けたことでしょう。だからファンはもとより市民待望の施設です。ならばこそ十分な検討と話し合いが必要だと指摘したのです。このままでは市と県とで双子のホールを造ることになりません。これを二重行政と言い、税金の無駄遣いではと申し上げているのです。

私の案は、定禅寺通りという格好の場所にある県民会館が空地となるので、そこに仙台市の音楽堂やその他能楽堂や美術館等々を合築したら良いと言っています。

その時大切なことは、市県夫々の音楽ホールの機能と仕様を分担して、双方が立ち行くようにするのが良いと思うのです。そして更に大切なことは、従来各区にある多目的ホールの改造改築や費用対効果にも十分な配慮が必要であるという観点です。

皆さん、いかがですか。まちづくり百年の計はあわてず、皆の力を合わせて、将来に禍根を残さないようにしましょう。

今ならまだ充分間に合います。



質問を終え、降壇する柳橋議員

## 🌐 関心のある政策について伺います。 ★点数が高いほど重要

### 1 景気などの経済政策

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

### 4 雇用創出対策

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

### 2 子育て・介護などの福祉政策

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

### 5 学力向上などの教育対策

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

### 3 災害に備えた防災対策

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

### 6 地域コミュニティ対策

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

## 🌐 音楽ホールをどうするかご意見をお寄せ願います。

.....

.....

.....

.....

お名前

〒

ご住所

電話番号

柳橋くにひこに

みなさまの声をお聞かせ下さい

FAX 022-236-9870